

ヤスハラケミカル  
環境・社会報告書

2025

自然と暮らしを科学でつなぐ。

***Nature-Driven Futures***

ヤスハラケミカル株式会社

# CONTENTS

- CONTENTS／会社概要／編集方針
- ヤスハラケミカル ～私たちの考え方～
- TOP MESSAGE
- 特集** コーポレートコミュニケーションによる  
プレゼンス強化
- 経営分野  
中長期的経営方針／財務ハイライト／部門別状況
- 環境・安全分野  
環境・安全に関する基本方針／推進体制  
【目標達成状況】  
2024年度の具体的目標と実績／無災害記録証授与制度
- 【事業活動における環境配慮への取り組み】  
エネルギー原単位／CO<sub>2</sub>排出原単位／  
大気汚染物質の排出量／特定排水COD負荷量／  
産業廃棄物排出原単位／PRTR対象物質の排出・移動量  
【安全衛生への取り組み】  
労働災害発生件数の推移／休業災害度数率の推移／  
安全衛生・環境に関する資格の保有者数
- 社会分野  
【お客様への取り組み】  
品質管理  
【株主・投資家の皆様への取り組み】  
株主総会／IR活動／株主還元  
【従業員への取り組み】  
仕事と家庭の両立支援／人材育成・社員教育  
【地域社会への取り組み】  
清掃活動／スポーツ支援／地域防災への参加／職場体験学習

## 会社概要

商 号 / ヤスハラケミカル株式会社  
YASUHARA CHEMICAL CO., LTD.  
本 社 / 〒726-0013  
広島県府中市高木町1071番地  
創 業 / 1947年(昭和22年)4月  
設 立 / 1959年(昭和34年)2月24日  
決 算 月 / 3月  
資 本 金 / 17億8,956万円  
主 な 製 品 / ■テルペン化学製品事業  
(テルペン系樹脂、合成香料原料、  
テルペン溶剤、ワックス)  
■ホットメルト接着剤事業  
(ホットメルト接着剤)  
■ラミネートフィルム事業  
(光沢ラミネートフィルム)

従 業 員 数 / 231名(2025年3月31日現在)  
証券コード / 4957

### 「環境・社会報告書2025」の発行について

ヤスハラケミカルは、企業活動全般を通じて、持続可能で豊かな暮らしの実現を目指しています。当社の理念に基づく取り組みをご報告し、より多くの方々にヤスハラケミカルの事業活動を知っていただくことを目的に2008年より、環境報告書を発行してきました。2016年からはタイトルを「環境・社会報告書」と改め、地域社会での活動などの社会性報告に加え、経営ビジョンや財務情報についてもご報告しています。

当社は、人や環境にやさしい天然素材の原材料を活かした製品を開発・提供することにより、資源調達から製造、流通、販売まであらゆる企業活動において環境への配慮を行っています。また、お客様、お取引先様、株主・投資家の皆様、従業員、地域社会を大切なパートナーと考え、様々な社会活動を続けています。

今後も、パートナーの皆様からのご意見を伺いながら、さらに情報の拡充を図り、よりわかりやすい報告書へと進化させてまいります。

### 編集方針

- 報告対象範囲  
ヤスハラケミカル株式会社管理部門及び生産拠点
- 報告対象期間  
2024年4月～2025年3月(一部期間外のトピックスを含みます)
- 次回発行予定 ※2026年6月発行予定です。
- 発行担当部署  
ヤスハラケミカル株式会社 経営統括本部 経営企画部  
TEL (0847) 44-6084(ダイヤルイン)  
FAX (0847) 45-8639

本報告書に関するご意見・ご質問は上記までお願いいたします。

# ヤスハラケミカル～私たちの考え方～

## 基本理念

自然の恵みと科学技術を融合させる独創企業として、産業と生活の向上につながる活動領域をひろげます。

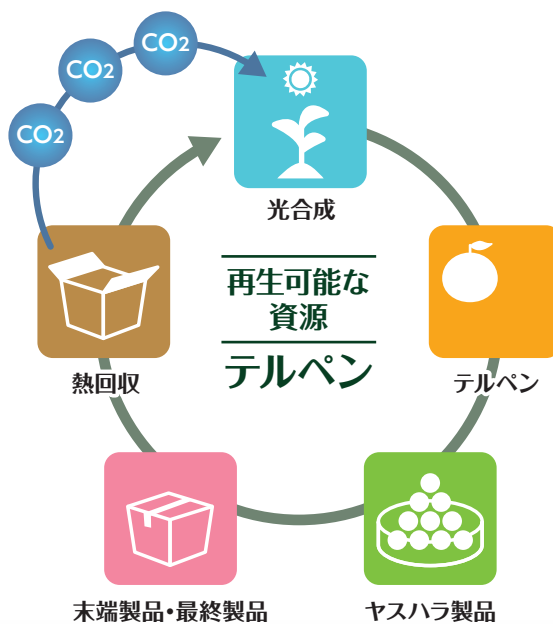
テルペン化学で培った創造と挑戦の精神をもって、自然界の無限の可能性を引き出し、産業への高品質・高付加価値品の安定供給を通して、社会の発展、便利な暮らし、心豊かな暮らしに貢献します。

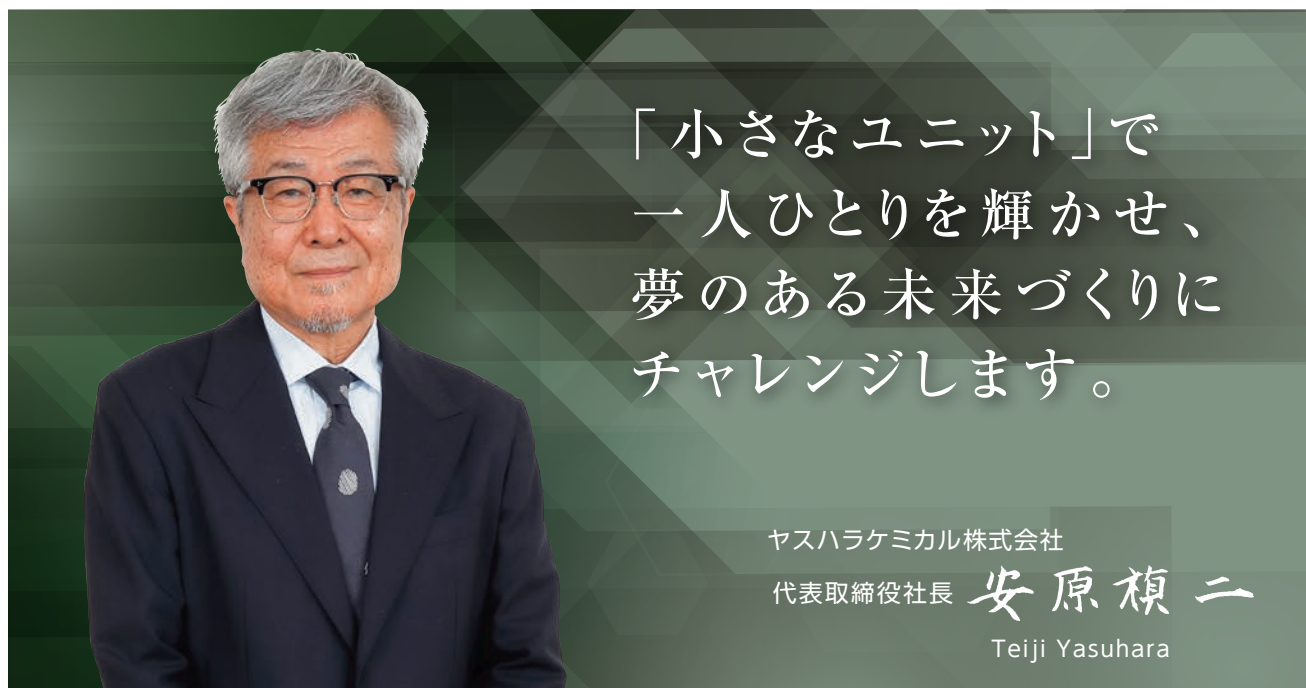
### ヤスハラケミカルの紹介

ヤスハラケミカルは環境にやさしい天然由来の「テルペン」を主原料とする化学メーカーで、粘・接着剤、ゴム・プラスチックの改質剤、香料、塗料の添加剤などの工業原料を製造しています。

### ヤスハラケミカルの目指すところ

私たちは、従来利用されていなかったものに原料としての有効性を見出し、「社会に還元する」精神のもと高付加価値な製品を提供してきました。今後も、事業活動を通じて、社会の発展、持続可能な暮らしの実現を目指してまいります。





---

## 将来起こりえる大きな変化に 対応するために、 準備や心構えが大切です。

---

アメリカでドナルド・トランプが2度目の大統領となり、世界経済はますます先が見通しにくい状況になっています。関税や安全保障の影響が顕在化するのには3ヶ月から半年先になることから、国内の企業経営者は、今は様子をうかがいながら対応策を考えているところだと思います。

しかしトランプ政権の本当の怖さは、既得権益を打破するというかけ声の下に、これまで積み上げてきた民主主義によるシステムを一旦「ゼロ」にして、自分たちの仲間だけが都合の良い新システムに替えていこうとしているところだと思います。それにより、アメリカと西側諸国との間に溝が生まれ始めています。

この溝は、日本の皆さんが思っているより深刻で、

すぐに変化を及ぼすものではありませんが、5～6年の時間をかけて、かなり大きな変化を起こす可能性があります。私は、将来起こる大きな変化に柔軟に対応していく最適解は、「小さなユニット」にあると考えています。

---

## 大きな変化に対応するための 最適解は、「小さなユニット」だと 思います。

---

「小さなユニット」とは、信頼できる仲間と共に助け合って、ひとつの目標に向かって皆で助け合い、知恵を出し合い、話をして成果を得るコミュニティと言えます。

昔は日本中の町や村が「小さなユニット」で、その中で経済も学びも完結し、皆が幸せに暮らせていました。しかし、社会が経済的な大きさや合理性を求める時代になると、人々は損得勘定だけで動くようにな



り、その結果リスクにチャレンジしにくい空気が滞留しているのが、今の日本の現状だと思います。

しかし「小さなユニット」なら、互いの顔が見えるので話もしやすく、チャレンジもしやすい空気が生まれます。そして、変化に対しても誰かが気づいたらすぐに皆に伝え、迅速かつ柔軟に対応することが可能になると考えています。

---

### スティーブ・ジョブズの発想法が チャンスを切り拓くヒントに なります。

---

「小さなユニット」を光り輝かせるには、その中の一人ひとりが、元気に輝くことが大切です。そのヒントは、コンピュータで世界を大きく変えたスティーブ・ジョブズの思考法にあると思います。

その思考法とは「ファースト・プリンシプル・シンキング」で、既成概念やこれまでのやり方を鵜呑みにせず、「本当にそうなのか？」と問い直し、本質を見抜くことで、新たな発想や解決策を生み出す思考法のことです。

インターネットによる情報が氾濫していても、限られた情報源やSNSだけを信じて行動するのは危険です。同じニュースでも、発信する報道元や別の国の報道内容など、多面的な情報ソースを広く収集することで本質が見えてきます。そしてそれが、新しい発想やチャレンジを生む土壌となります。

一人ひとりが「ファースト・プリンシプル・シンキング」の思考で発想し行動し、それが「小さなユニット」

としてチーム一丸となれば、激しい変化に対応していくことも怖くはないと思います。

---

### 新しい人や新しい出来事との 出会いがコミュニケーション力や 行動力を育てると思います。

---

「小さなユニット」を光り輝かせるには、一人ひとりのコミュニケーション力や行動力を育てることも大切です。その狙いのひとつとして、展示会へはできるだけ多くの社員の参加を促しています。(特集参照)

展示会に参加すると、日常生活では会ったことのないほどパワーを持った人や、知らない人と会話のキャッチボールをする機会が多くあります。こうした出会いや刺激こそが重要で、それにより自ら新しい視点や行動力を生み出す活力になります。展示会に参加する目的は、直接的にビジネスに結びつくことより、継続して参加することで社員自ら変わっていくことが重要だと考えています。

私は、ヤスハラケミカルを「小さなユニット」で光る会社にしたいと考えています。そしてそれが地域社会と融合することで、さらに光り輝き、その姿に共感した近くの会社や地域が、同じように「小さなユニット」として共鳴しあい広がっていく社会になれば良いと思っています。

日本には、そのチカラがあると思います。私はそれを信じて、未来へ向けてのチャレンジを続けていきます。

## 「自然由来」にこだわる当社の強みを、 プレゼンス強化につなげていきます。

2024年、国内と海外での展示会に参加し、新たな経験を得ました。  
今回の特集では、2つの展示会参加の狙いや得られた経験をご報告します。

### ◆コーポレートコミュニケーション再発信の重要性

ヤスハラケミカルは、創業以来、「自然由来」の化学原料を社会に提供しています。そのことは、社内では当たり前のこととして捉えられていましたが、世界中で環境や自然の大切さが注目されるようになった4～5年程前から、当社の「自然由来」の原料やこだわりが社会的価値を持つことを、もっと伝えていく必要があるのではないかと考えていました。また、社外ステークホルダーの皆さまからも、ヤスハラケミカルの特徴や技術を、もっと分かりやすく時代に合った形でアピールすることも重要ではないかとお声もいただくようになりました。

経営統括本部  
取締役経営統括本部長  
原田 桂子



そこで、情報発信の手段を少しずつ見直すべく、2024年から新たなコーポレートコミュニケーションへの取り組みをはじめました。具体的には、タグラインとコーポレートムービーを制作、国内・海外の展示会への参加を行いました。

### ◆タグラインと映像制作で「自分たちの会社」を見つめる機会を創出

コーポレートコミュニケーションの基本は、自分たちの会社の「何が強みなのか」やお客さまに「何を伝えたいのか」をしっかりと整理しておくことだと思います。そこで、全社員を巻き込んで新たなタグラインを制定する社内プロジェクトを行いました。

候補となるタグラインを複数案提示し、良いと思う案とその理由を問うアンケートを全社員に実施したところ、90%以上から回答を得ました。その中で64%を占めた「Nature-Driven

Futures（自然由来が創る未来）」という言葉、タグラインとして主に海外マーケットに使用していくことになりました。それと同時期にコーポレートムービーの制作も行い、本社や工場などの現場を撮影し、多くの社員にも参加してもらいました。

これらの活動を通して、自分たちの会社が「自然」に軸足をのいた企業活動をしていること、それが「未来」へつながっていることを、社員一人ひとりが改めて考えるきっかけとなったと思います。

#### 新タグライン

## Nature-Driven Futures

（自然由来が創る未来）

### ◆国内や海外の展示会へも積極参加

展示会への参加も、コーポレートコミュニケーションにおいては重要な活動のひとつと捉え、昨年、国内では「第4回サステナブルマテリアル展」に、海外ではアメリカのフロリダで開催された「PSTC(Pressure Sensitive Tape Council) Tape Week 2024」に参加しました。

展示会とひと言でいっても、国内と海外ではマーケット特性が全く異なります。そこで国内では、現在当社が得意としてい

る分野の周辺にある業種や企業へアプローチすることで、マーケットの可能性を広げていきたいと考えています。

一方海外の市場は、「自然由来」の原料に強いというヤスハラケミカルの特徴をストレートに訴求することが、得意先や販売数の拡大へつながりますから、展示会でもプロフェッショナルが集うイベントやターゲットに的を絞って戦略的に参加するように計画しています。



第4回サステナブルマテリアル展 東京会場



PSTC(Pressure Sensitive Tape Council) Tape Week 2024



## 今後も展示会に参加し続けることで、 会社の活力を高める「力」にしていきます。

私は、学会や展示会への出展参加は、大切な活動と位置づけています。情報の収集だけでなく、自分たちの訴求点をより多くの相手に伝えることができ、様々な接点を生み出すきっかけにもなるからです。さらに、できるだけ多くの社員、特に若手社員を巻き込むことで、それら社員一人ひとりの発信力や提案力が増し、日常業務のスキルアップやプレゼンスの向上にもつながると考えています。

そこで、どの展示会に参加するかをずっと調査していて、選んだのが「第4回サステナブルマテリアル展」でした。高機能素材をテーマに国内外から広範囲な分野・業種の企業が集まる大規模の商談会で各社の切り口は実に様々。当社の原料の性質ともマッチし多くの社員を巻き込めるため、訴求点や切り口の提案やそのアウトプットの場として絶好の機会と考えました。



イノベーション推進室 室長 吉舎 史晃

幕張メッセで開催され、当社のブースには、3日間で1,000名近くの来客がありました。

参加した社員は3日間で約30名、営業部門からはほぼ全員、研究部門や購買部門からも参加してくれました。対応した社員からは、日頃の業務とは違う場で違う刺激を受けたことから「楽しかった!」の声も多く聞こえました。展示会への参加の経験は、社員一人ひとりが「次はこうしよう!」「あの情報を日常業務で試してみよう」と視点や行動を広げるきっかけになったと思います。

そして、1度だけでなく次に、さらに次に参加経験を継続していくことで、会社全体の活力を高める「力」になると思います。



営業部 担当部長 津浦 泰

## 海外では信頼関係・人間関係を重視し、 的を絞ったマーケティング活動を 続けていきます。

海外でのマーケティングでは、国内営業とは異なるアプローチが必要です。

海外では初対面でいきなり売り込みをしても相手にしてくれません。信用できる人からの紹介や、信頼性の高いクライアントとの実績を示すことで、少しずつ対話する関係性を築くことができます。信頼関係がなければビジネスの話はできないことから、展示会に参加するなら、プロフェッショナルが本当に必要な情報収集や人間関係構築のために開催されるイベントに的を絞り、業界での信頼感のある人と参加したいと考えていました。

その思いから今回参加したのが「PSTC(Pressure Sensitive Tape Council) Tape Week 2024」でした。

「PSTC」は、アカデミックな情報交流会で、昨年はフロリダのオーランドで開催されました。

参加への橋渡しとなったのは、一人のアメリカ人研究者との

10年間かけて築いた強い信頼関係です。彼は、アメリカを代表するグローバルなテクノロジー企業で上級クラスまで昇りつめた優秀な研究者で、退職後、技術コンサルタント会社を起業しました。当社は海外の取引先拡大や人的ネットワークを強くするチャンスと思い、当社の技術コンサルタントとして彼の会社と契約しました。

「PSTC」では、彼と一緒に資料や展示物を準備するとともに、彼の豊富な人脈もいかすことで、多くの参加者と広く緊密な交流を果たしました。そこでは、当社の永年にわたる「自然由来」原料へのこだわりや、カスタムグレードの開発が可能な研究開発体制、高い品質を確保しながら安定供給できる製造体制などを訴求し、多くの共感を得ました。

このように海外のマーケティングにおいては信頼関係や人間関係を重視し、的を絞った営業活動を行うことで、さらに市場を広げていきたいと考えています。

## 中長期的経営方針

当社は、設備と人の両面から、体質改善による基盤強化を推進しています。中長期的経営方針としては、収益性改善、新規開拓、グローバル展開を掲げ、積極的に取り組んでまいります。

### 「人のチカラ」

中長期的経営方針で掲げた目標を達成するためには、「人のチカラ」が最も重要であることを強く認識しています。そのため、社員の意識改革に繋がる教育投資、自律型人材育成を積極的に推進してまいります。ヤスハラケミカルは、従業員一人ひとりが筋肉質になることを目指しています。筋肉質であるためには、例えば、情報をただ集めるだけではなく、読書などにより知識を増やし、情報を編集する力を身につける必要があります。知識が増えると、視野が広がり、創造性が育まれ、競争に負けない力を発揮できるようになると考えています。長期的視点に立って、「人のチカラ」を伸ばしていきます。

### 収益性改善

高収益製品の売上増加、工場の合理化の推進を図ることにより、利益を創出する収益構造を確立します。



収益性  
改善

人のチカラ



グローバル  
展開

新規開拓



### グローバル展開

新興国市場など成長を取り込める事業を展開している顧客を重点的かつ積極的に探索することで、海外市場の新規開拓と拡大を目指します。

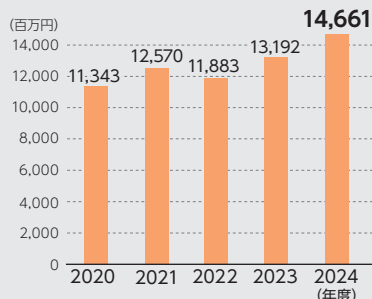
### 新規開拓

研究開発と事業化の加速を図りながら、付加価値の見込める分野、用途を積極的に開拓します。

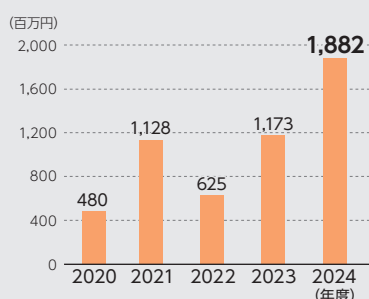


## 財務ハイライト

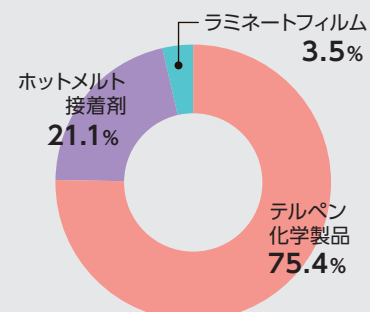
## ●売上高の推移



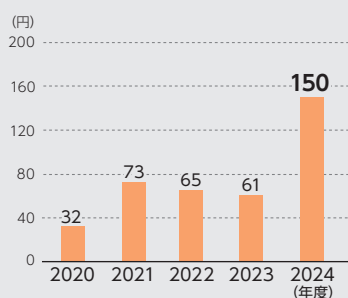
## ●経常利益の推移



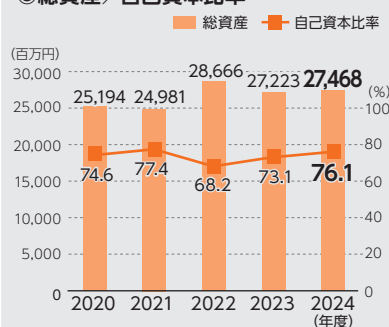
## ●部門別売上比率 (2024年度)



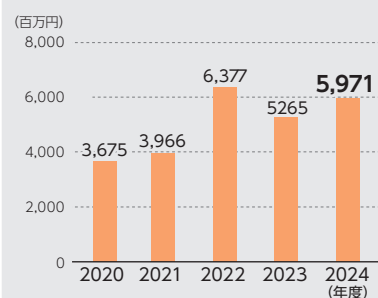
## ●1株当たり純利益



## ●総資産／自己資本比率



## ●現金及び現金同等物の期末残高

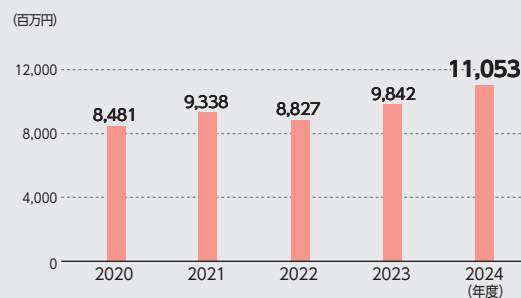


## 【部門別状況】

## テルペン化学製品

粘着・接着用樹脂においては、自動車用品用途のテルペン樹脂及び変性テルペン樹脂に加え土木用途のテルペンフェノール樹脂が好調に推移しました。また、化成品においては、木工用途のワックスが低調に推移した一方、電子材料分野が好調に推移しました。その結果、部門全体の売上高は前事業年度比112.3%と増収になりました。

## ●売上高の推移



## ホットメルト接着剤

ホットメルト接着剤においては、食品用途の押出グレードが好調に推移しました。その結果、部門全体の売上高は前事業年度比108.5%と増収になりました。

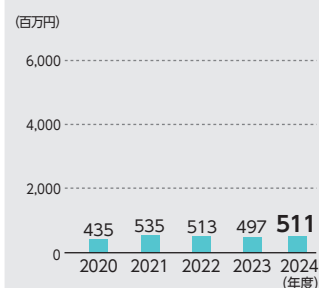
## ●売上高の推移



## ラミネートフィルム

ラミネートフィルムにおいては、光沢化工紙用ラミネートフィルムが好調に推移しました。その結果、部門全体の売上高は前事業年度比102.7%と増収になりました。

## ●売上高の推移



ヤスハラケミカルは、人や環境にやさしい天然素材の原材料を活かした製品を開発・提供することはもとより、資源調達から製造、流通、販売まであらゆる企業活動において環境への配慮を行うことで、持続可能で豊かな環境づくりに貢献していきたいと考えています。

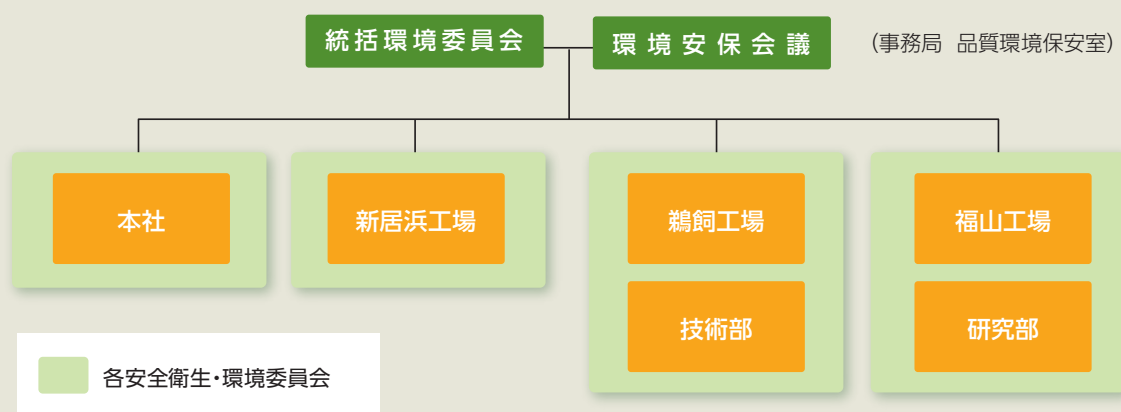
## 《 環境・安全に関する基本方針 》

- 1 天然物の有効活用による安全で環境負荷低減型製品の開発により、各産業分野における地球環境保護(省資源、リサイクル、健康有害物の排除など)の推進に貢献する製品を提供することで社会に貢献します。
- 2 製品の開発から廃棄に至るまでのライフサイクル全般にわたり、環境負荷の低減を図り、環境保護に努めます。
- 3 無事故・無災害の操業を継続し、従業員と地域社会の安全を確保します。
- 4 原料、製品の安全性を確認し、従業員、物流業者、顧客など関係する人々への健康障害を防止します。

全従業員は、この方針の重要性を認識し、法令、規格及び社内ルールを順守するとともに、常に改善に努力すること。

ヤスハラケミカル株式会社 代表取締役社長 安原 慎二

### 推進体制



|                   |      |                               |
|-------------------|------|-------------------------------|
| ISO 14001<br>取得状況 | 適用工場 | 新居浜工場(技術課除く)、福山工場(技術課除く)、鵜飼工場 |
|                   | 登録番号 | JCQA-E-0264                   |
|                   | 認証機関 | 日本化学キューエイ株式会社                 |

## 目標達成状況

### 》》 2024年度の具体的目標と実績

ヤスハラケミカルでは、各工場での環境目標を数値設定・励行することで、事業活動全体における環境負荷の削減を推進しています。

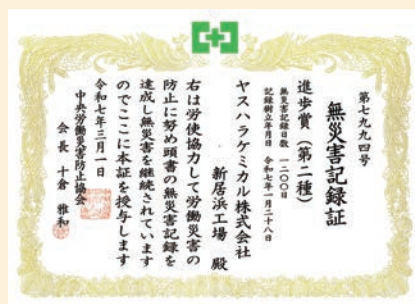
| 環境活動の目標と実績           |                                   |                                      |    |                                   |
|----------------------|-----------------------------------|--------------------------------------|----|-----------------------------------|
| 活動テーマ                | 2024年度目標                          | 2024年度実績                             | 評価 | 2025年度目標                          |
| 環境マネジメントシステム(EMS)の推進 | EMS認証取得3工場の認証維持                   | EMS認証取得3工場の認証維持                      | ○  | EMS認証取得3工場の認証維持                   |
| 省エネルギーの推進            | エネルギー原単位<br>前年度比1%削減              | エネルギー原単位<br>前年度比2.5%削減               | ○  | エネルギー原単位<br>前年度比1%削減              |
| 温室効果ガスの排出削減          | CO <sub>2</sub> 排出原単位<br>前年度比1%削減 | CO <sub>2</sub> 排出原単位<br>前年度比10.2%減少 | ○  | CO <sub>2</sub> 排出原単位<br>前年度比1%削減 |
| 産業廃棄物の削減             | 産業廃棄物<br>排出原単位削減                  | 産業廃棄物<br>排出原単位14.8%増加                | ×  | 産業廃棄物<br>排出原単位削減                  |
|                      | 産業廃棄物<br>排出量削減                    | 産業廃棄物<br>排出量31.9%増加                  | ×  | 産業廃棄物<br>排出量削減                    |
| 化学物質の適正管理            | PRTR排出量削減                         | PRTR排出量<br>12.2%増加                   | ×  | PRTR排出量削減                         |
|                      | 化学物質リスクアセスメントの継続実施                | 化学物質リスクアセスメントの継続実施                   | ○  | 化学物質リスクアセスメントの継続実施                |
| 災害・事故                | 休業災害・事故ゼロ                         | 休業災害0件<br>事故0件                       | ○  | 休業災害・事故ゼロ                         |
| 環境・社会報告書発行           | 年1回発行                             | 6月発行                                 | ○  | 年1回発行                             |

○目標を達成 ×目標を達成できなかった

## 無災害記録証授与制度

当社は、2002年1月より当社独自の制度によって、安全意識の向上を目的に、規定の連続無災害日数を達成したグループに対して安全表彰を行ってまいりました。さらなる安全啓発を図るべく、2018年1月より中央労働災害防止協会主催の中小企業無

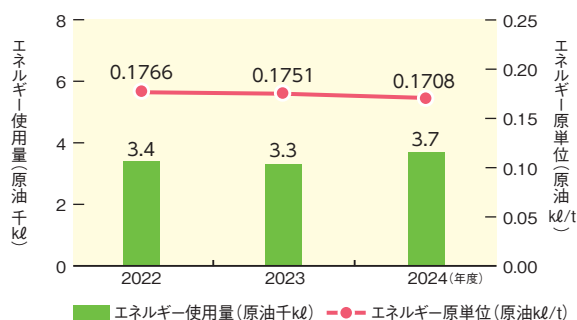
災害記録証授与制度を活用しています。2024年度は、新居浜工場(従業員数53名)で2025年1月に第二種記録(無災害記録日数1,200日)を樹立し、中央労働災害防止協会より記録証が授与されました。



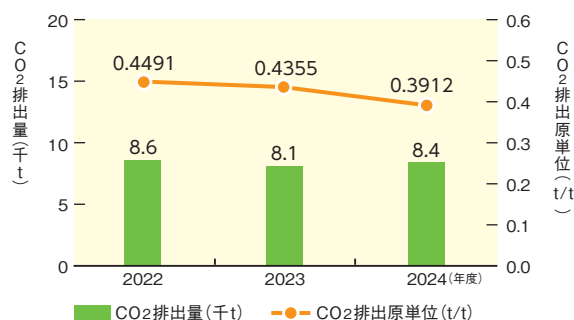
## 事業活動における環境配慮への取り組み

## 》》 エネルギー原単位

2024年度のエネルギー原単位は、生産稼働効率の改善により、前年度比2.5%減少しました。

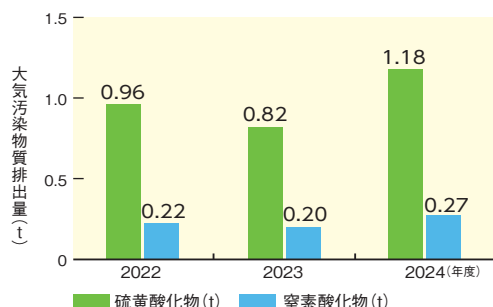
》》 CO<sub>2</sub>排出原単位

2024年度のCO<sub>2</sub>排出原単位は、排出量を抑制する取り組みにより前年度比10.2%減少しました。



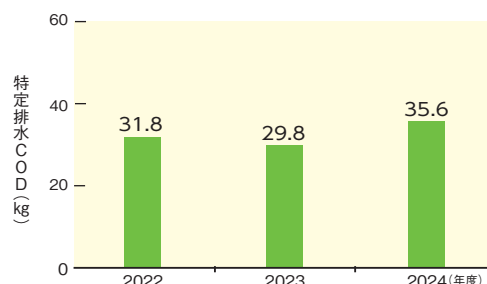
## 》》 大気汚染物質の排出量

2024年度の硫黄酸化物排出量は前年度比43.9%増加、窒素酸化物排出量は前年度比35.0%増加しました。



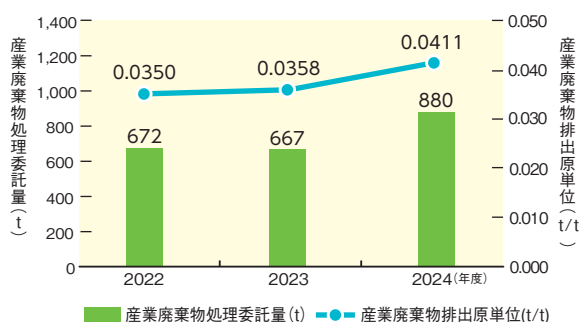
## 》》 特定排水COD負荷量

2024年度の化学的酸素要求量(COD)負荷量は、前年度比19.5%増加しました。



## 》》 産業廃棄物排出原単位

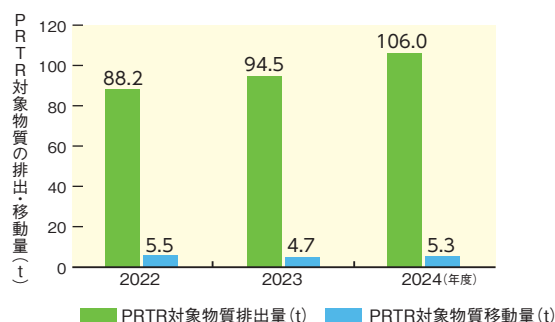
2024年度の委託量は前年度比31.9%増加し、産業廃棄物排出原単位は前年度比14.8%増加しました。



## 》》 PRTR※対象物質の排出・移動量

2024年度の排出量は前年度比12.2%増加しました。移動量は前年度比14.7%増加しました。

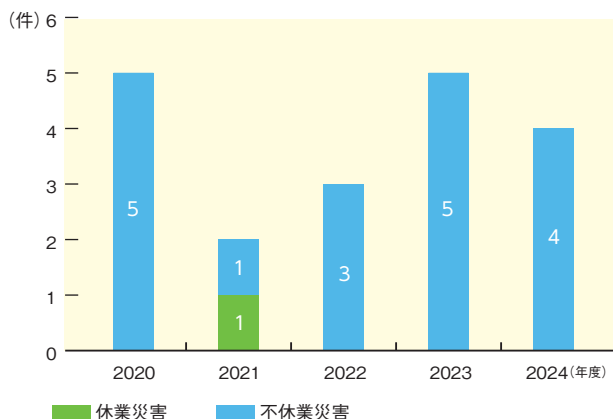
※PRTR:人の健康や生態系に有害なおそれのある化学物質が、事業所から環境(大気、水、土壌)へ排出される量および廃棄物に含まれて事業所外へ移動する量を、事業者が自ら把握し国に届け出をし、国は届出データや推計に基づき、排出量・移動量を集計・公表する制度です。



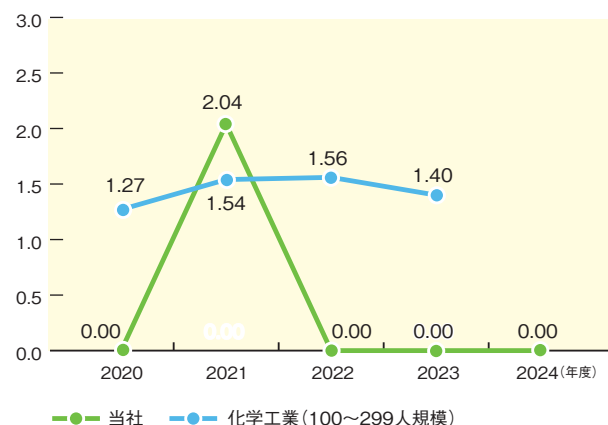
## 安全衛生への取り組み

従業員の安全衛生に関するリスクを評価し、安全を最優先に事業活動を行っています。また、メンタルヘルス基本方針を定め、従業員一人ひとりの心身の健康が、会社の成長と発展につながる基盤であることを認識し、メンタルヘルスケアの確立及び改善に取り組み、従業員が心身ともに健康を維持し活力に満ちて働くことができる職場環境の確保に努めます。メンタルヘルス不調予防のためにストレスチェックを導入するなど、安全・健康そして快適な職場づくりに取り組んでいます。

### 労働災害発生件数の推移



### 休業災害度数率の推移



※度数率は、100万延べ実労働時間当たりの労働災害による死傷者数で、災害発生頻度を表す。

$$\text{度数率} = \frac{\text{労働災害による死傷者数}}{\text{延べ実労働時間数}} \times 1,000,000$$

※出典：厚生労働省「労働災害動向調査」の「用語の解説」(6) 項アから引用

### 安全衛生・環境に関する資格の保有者数

安全衛生・環境に関わる必要な資格の積極的な取得に努めています。

法的に定められた先任者は充足していますが、新入社員をはじめとした若手従業員を中心に資格取得の推進を図り、スキルアップにつなげています。

| 資格名称        | 2024年度保有者数※(名) |
|-------------|----------------|
| 公害防止管理者     | 11             |
| エネルギー管理士    | 11             |
| 衛生管理者       | 25             |
| ボイラー技士・整備士  | 42             |
| 危険物取扱者      | 153            |
| 消防設備士       | 24             |
| 高圧ガス製造保安責任者 | 46             |

※2025年1月31日時点の各工場勤務者

#### COLUMN

従業員の心と体の健康維持・改善のため、健康診断・特定業務健診およびストレスチェックを実施しています。その他に産業医による衛生講話、メンタルヘルスケアに関する教育などの活動に取り組んでいます。

#### 産業医による衛生講話



鵜飼工場



本社事務所

## お客様への取り組み

### 品質管理

#### 品質方針

お客様の満足と信頼をいただくために、  
常にニーズに合った品質の製品を  
経済的、安定的に提供します。

取締役 生産本部本部長 栗本 倫行

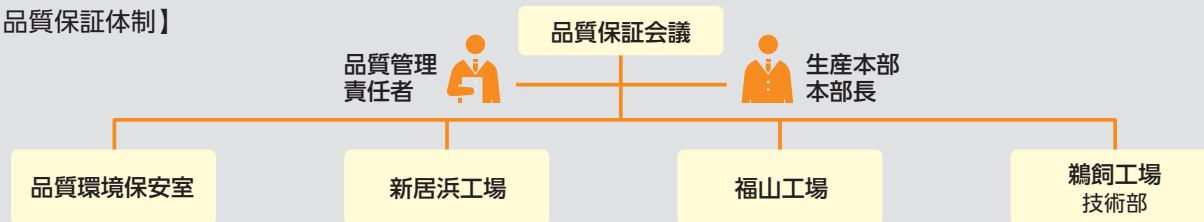
ISO 9001  
取得状況

|      |                 |
|------|-----------------|
| 適用工場 | 新居浜工場、福山工場、鶴飼工場 |
| 登録番号 | JCQA-0472       |
| 認証機関 | 日本化学キューエイ株式会社   |

品質マネジメントシステムISO9001:2015を運用し、顧客満足向上、品質向上に努めています。

品質保証活動を全社で推進するため、品質保証会議を合同で定期開催し、お客様からのご要望やご指摘を共有するとともに、工場の問題点などを明確にして解決策を協議しています。今後も製品品質の維持管理や改善に努めます。

#### 【品質保証体制】



## 株主・投資家の皆様への取り組み

### 株主総会

当社は、より多くの株主様にご出席いただけるよう、総会を集中日より早期に開催するとともに、株主総会招集通知の早期発送ならびに早期開示を行っています。

2024年6月20日に開催した第66期定時株主総会は、多数の株主の皆様にご参加いただきました。総会後には近況説明会を開催し、当社の経営方針や業績予測について説明を行うとともに、株主の皆様からのご質問にお答えさせていただくなど、株主の皆様との対話の場を設けました。



### IR活動

株主・投資家の皆様に向けて、業績、経営戦略、その他当社をご理解いただくために有用な情報を、適時適切に開示しています。また、当社のプレゼンス強化を目的に、新たにタグラインの制定とコーポレートムービーの制作を行いました。



タグライン : Nature-Driven Futures



会社紹介動画 ヤスハラケミカル公式YouTube

### 株主還元

当社では中長期的な視点からの株主の皆様への利益還元を重要な政策と位置付け、継続的かつ安定的な配当を実施しています。

## 従業員への取り組み

### 》》 仕事と家庭の両立支援

育児や介護といった家庭の事情と仕事を両立できるよう、育児休業制度、介護休業制度、育児・介護短時間勤務制度といった両立支援制度を取り入れています。従業員への認知も定着し、また制度を活用しやすい職場環境を整えたことで、今年度もさまざまな人が制度を利用しました。



| 制度        | 概要                                             | 2022年度         | 2023年度         | 2024年度         |
|-----------|------------------------------------------------|----------------|----------------|----------------|
| 育児休業制度    | 子が1歳に達するまで<br>(一定の条件のもと、最長2歳まで延長可能)            | 4名<br>(内 男性3名) | 5名<br>(内 男性4名) | 1名<br>(内 男性1名) |
| 介護休業制度    | 要介護状態の家族がある場合、<br>通算93日間まで(3回を上限として分割取得可)      | 0名             | 0名             | 0名             |
| 育児短時間勤務制度 | 子が小学校3年生終了まで勤務時間を<br>9:00~16:00(または16:30)に短縮可能 | 10名            | 10名            | 9名             |

### 》》 人材育成・社員教育

全社員の育成を目的にさまざまな教育を実施しております。今年度は取締役及び部門長を対象とした「ハラスメント研修」及び「情報セキュリティ研修」を実施し、従業員には「セルフケア研修」「DX研修」「考課者訓練」等を実施しました。また自己啓発として通信教育、e-ラーニングの受講等も推奨しており人材育成にも力を入れています。



社員研修

## 地域社会への取り組み

### 》》 清掃活動

地域社会への感謝の気持ちを込めて、本社事務所、各工場周辺の清掃を行っています。



### 》》 スポーツ支援

当社は、女子バレーボール市民クラブチーム「岡山シーガルズ」の応援を通じて、スポーツ振興に取り組んでいます。定期的に開催される同チームによる府中バレーボール教室を共催するなど、地域に根ざした活動を展開しています。

### 》》 地域防災への参加

広島県福山市で開催された「福山消防競技大会」及び愛媛県新居浜市で開催された「事業所初期消火競技大会」に参加しました。新居浜工場においては屋外消火栓の部にて準優勝の成績を収めることができました。



福山消防競技大会

### 》》 職場体験学習

地域の学校の生徒を対象に、職場体験学習の受入れを行っています。2024年度は鵜飼工場に2名の中学生が職場体験学習に訪れました。



<https://www.yschem.co.jp>



ヤスハラケミカル株式会社

〒726-0013 広島県府中市高木町1071番地 TEL:0847-45-3530 FAX:0847-45-8639

**UD FONT**  
見やすいユニバーサルフォントを  
採用しています。